

次期の見通し (2021年3月期)

売上収益

3,030億円 前期比 **3.6%増**

抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、競合品との競争激化が予想される一方、食道がん領域での使用拡大や非小細胞肺がんの一次治療への参入を見込んでおり、27億円(3.1%)増の900億円を予想しています。また、4製品の新発売に伴う増加、さらに、ロイヤルティ収入の増加を見込んでおり、次期の売上収益は前期比106億円(3.6%)増の3,030億円を予想しています。

営業利益

800億円 前期比 **3.2%増**

2020年3月に山口工場にて製造が開始したことなどにより、売上原価は当期比24億円(3.1%)増の815億円の見込みです。また、研究開発費は前期比25億円(3.8%)増の690億円、販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は前期比23億円(3.4%)増の700億円を見込んでおり、営業利益は前期比25億円(3.2%)増の800億円を予想しています。

税引前当期利益

820億円 前期比 **2.9%増**

金融収支等は、前期比2億円減少の20億円と見込んでおり、次期の税引前当期利益は前期比23億円(2.9%)増の820億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

610億円 前期比 **2.2%増**

法人所得税を11億円(5.5%)増の209億円と見込んでいることから、次期の親会社所有者帰属分の当期利益は、前期比13億円(2.2%)増の610億円を予想しています。

注) 新型コロナウイルス感染症の収束時期を現時点で正確に見通すことが困難なため、上記の業績予想には、2020年6月末まで医療機関への訪問活動等の自粛が続いた場合の影響を織り込んでいます。第2四半期以降も活動制限が続いた場合、活動自粛および受診抑制等により売上収益に若干のマイナス影響が見込まれるものの、同時に事業活動の低下による経費支出抑制も生じるため、営業利益に与える影響は軽微と見積もっています。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示します。